HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代社会と心の悩み ： 自殺問題を中心に
Author(s)	吉岡, 英治
Relation	「SW2010オープニング行事　北海道大学「持続可能な発展」国際シンポジウム ： ひとり一人がすこやかに人間らしく生きる社会を目指して ： わたしたちが直面する危機の原因を包括的に探る」分科会4 ： 高齢社会の健康と介護：幸せとは？. 平成22年10月26日(火). 北海道大学学術交流会館, 札幌市.
Issue Date	2010-10-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44368
Type	conference presentation
File Information	yoshioka.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

現代社会と心の悩み
―自殺問題を中心に―

吉岡英治
北海道大学大学院医学研究科
公衆衛生学分野

本日の講演内容

1. 自殺の統計：日本の現状
2. 統計からみる自殺死亡者の背景
   - 1998年の自殺死亡者急増に関して
3. 日本の自殺対策
4. 海外との比較
5. 考察

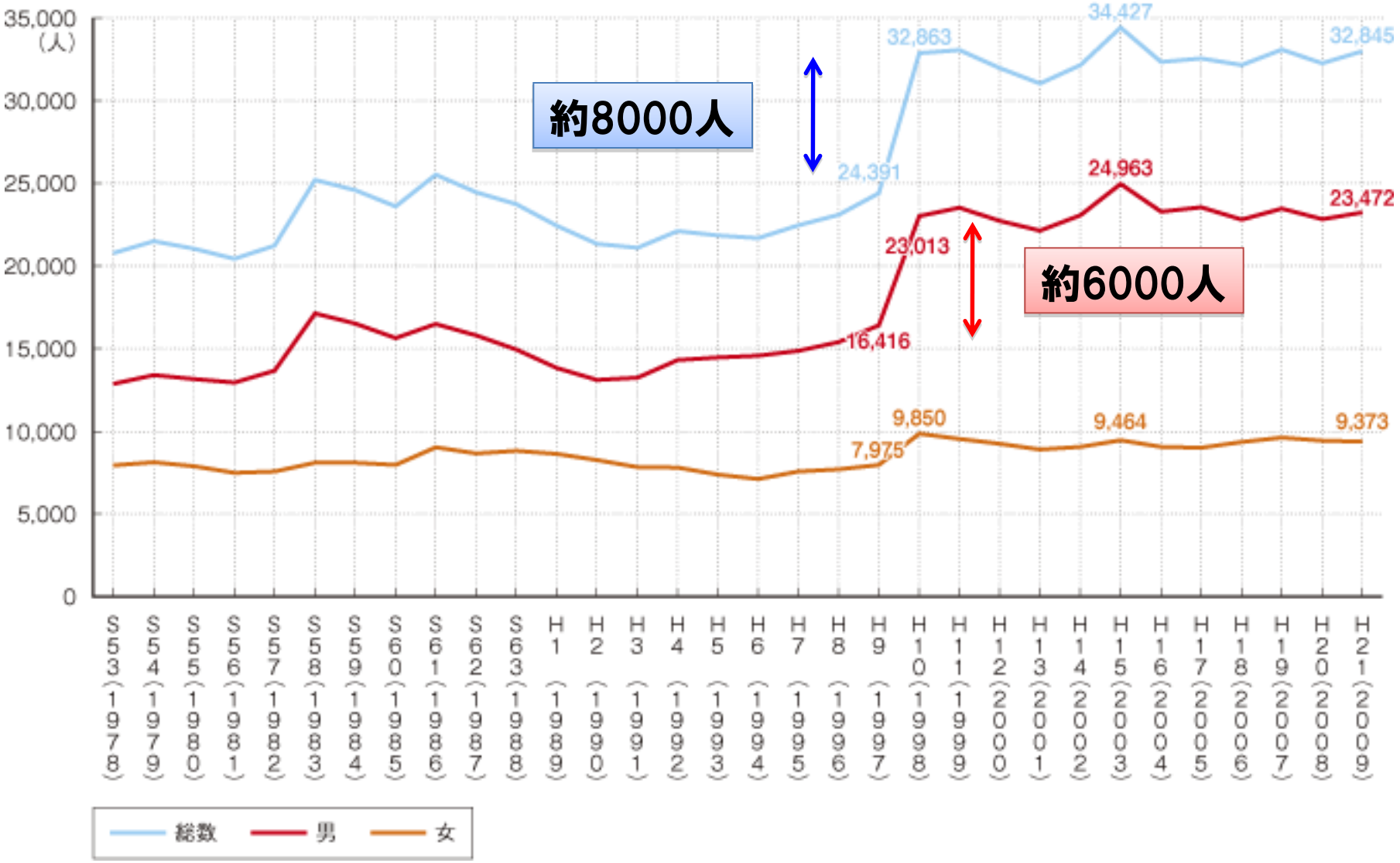
厚生労働省発表
平成20年人口動態統計　死因順位

順位	死因	死亡数	全死亡率（10万対）	男性	女性
	全死因	1 142 467	907.1	991.0	827.2
1	悪性新生物	342 849	272.2	335.8	211.6
2	心疾患	181 822	144.4	140.1	148.4
3	脳血管疾患	126 944	100.8	99.4	102.1
4	肺炎	115 240	91.5	99.8	83.6
5	不慮の事故	38 030	30.2	37.0	23.7
6	老衰	35 951	28.5	14.2	42.2
7	自殺	30 197	24.0	35.0	13.4
8	腎不全	22 491	17.9	17.0	18.7
9	肝疾患	16 229	12.9	17.2	8.7
１０	慢性閉塞性肺疾患	15 505	12.3	19.4	5.5

性別年齢別死因第１位
（厚生労働省平成21年度人口動態統計）

男性				女性		
年齢	死因第１位	自殺順位		年齢	死因第１位	自殺順位
0	先天奇形など			0～4	先天奇形など	
1～9	不慮の事故			5～9	悪性新生物	
10～14	不慮の事故	3		10～14	悪性新生物	3
15～19	不慮の事故	2		15～34	自殺	
20～44	自殺			35～49	悪性新生物	2
45～49	悪性新生物	2		50～54	悪性新生物	3
50～59	悪性新生物	3		55～64	悪性新生物	4
60～74	悪性新生物	4～7		65～74	悪性新生物	5～7
75～	悪性新生物			75～	悪性新生物	

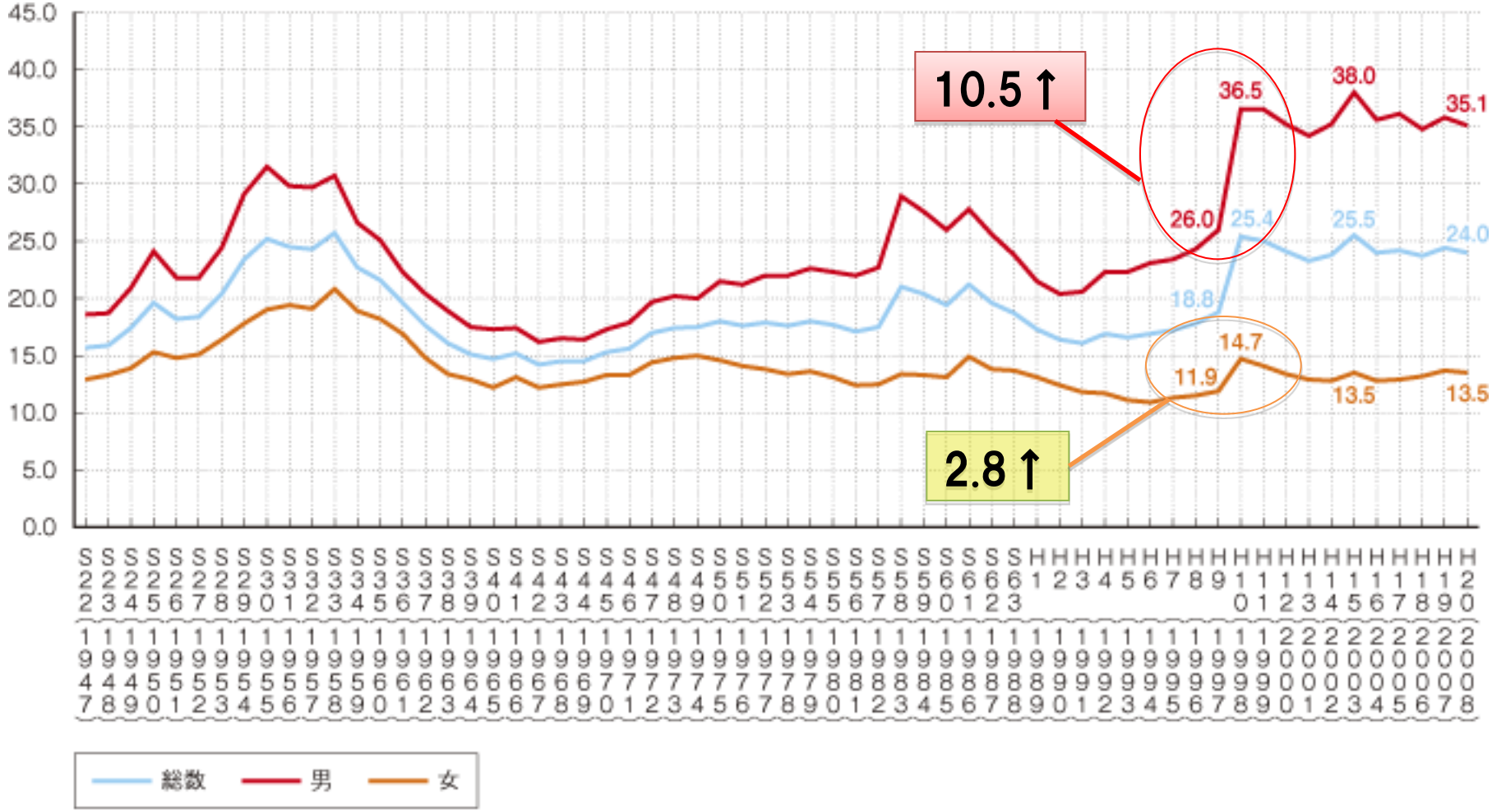
年間自殺数年次推移



警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

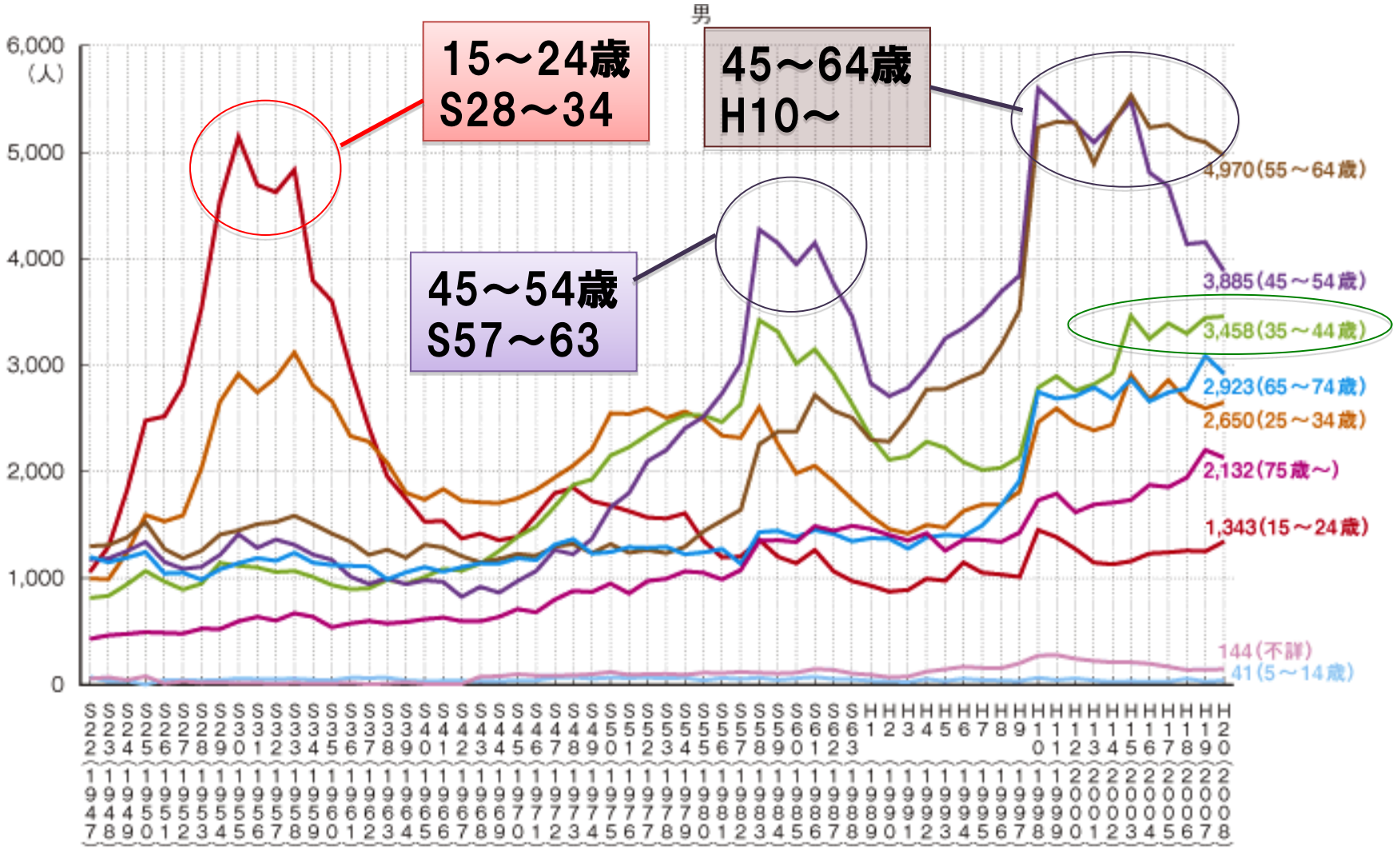
自殺死亡率の長期的推移（1947～2008）

10万人あたり



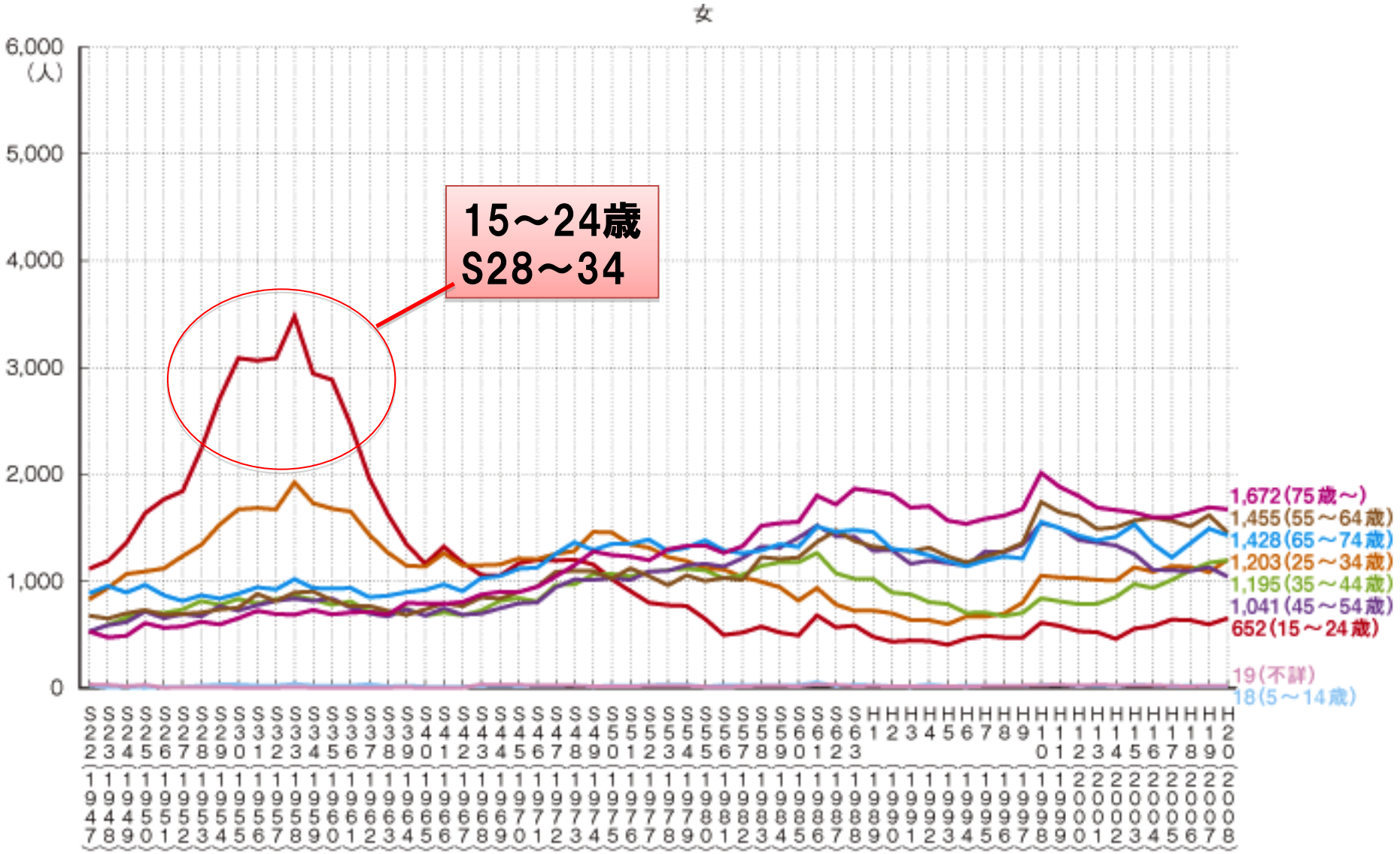
厚生労働省人口動態統計より：平成22年版自殺白書

年齢階級別自殺率の長期的推移（男性）



厚生労働省人口動態統計より：平成22年版自殺白書

年齢階級別自殺率の長期的推移（女性）

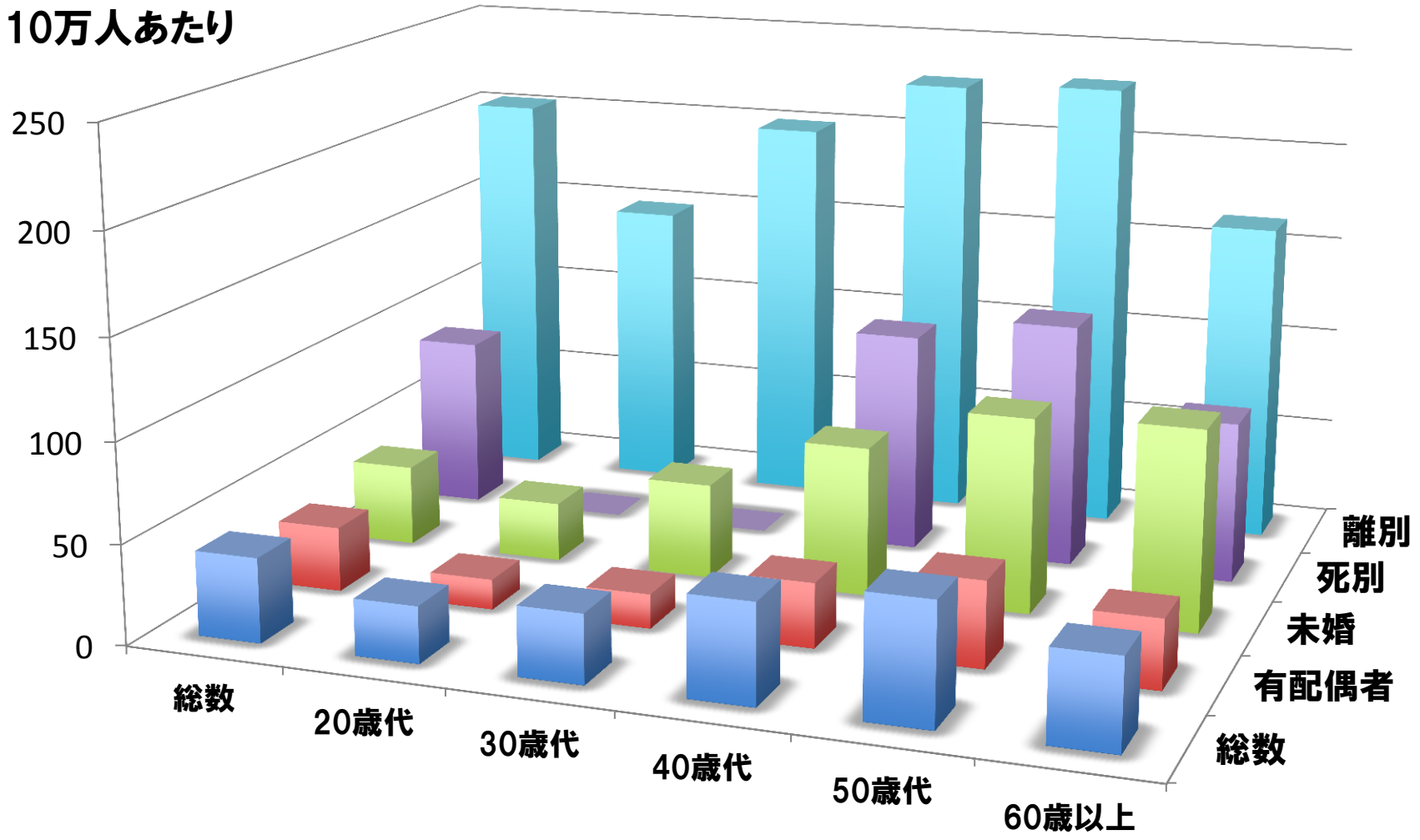


厚生労働省人口動態統計より：平成22年版自殺白書

統計からみる自殺死亡者の背景

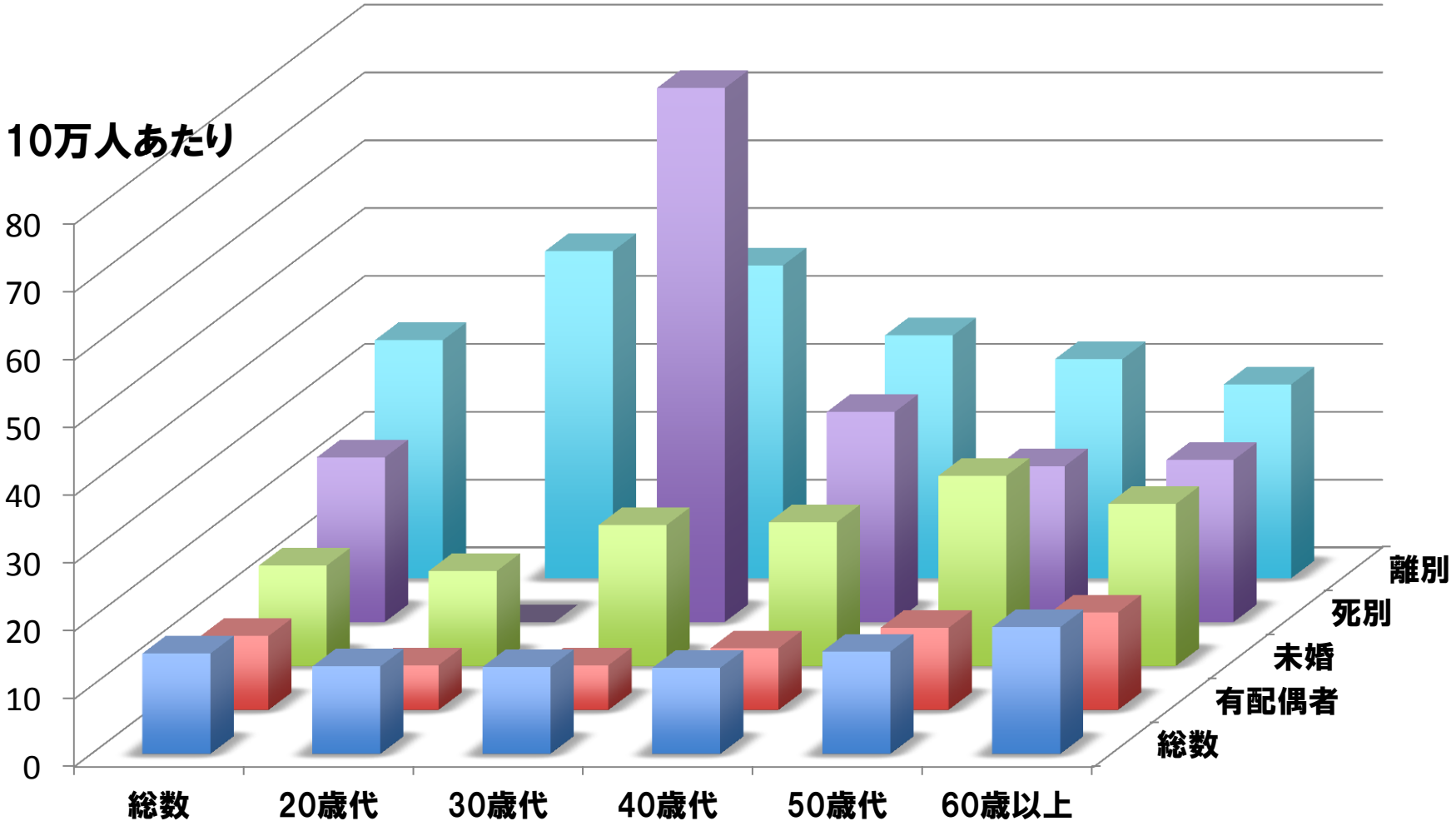
- 配偶関係別
- 職業別
- 原因、動機別

平成17年における配偶関係別の自殺死亡率（配偶関係別人口10万人当たり）の状況（男性）



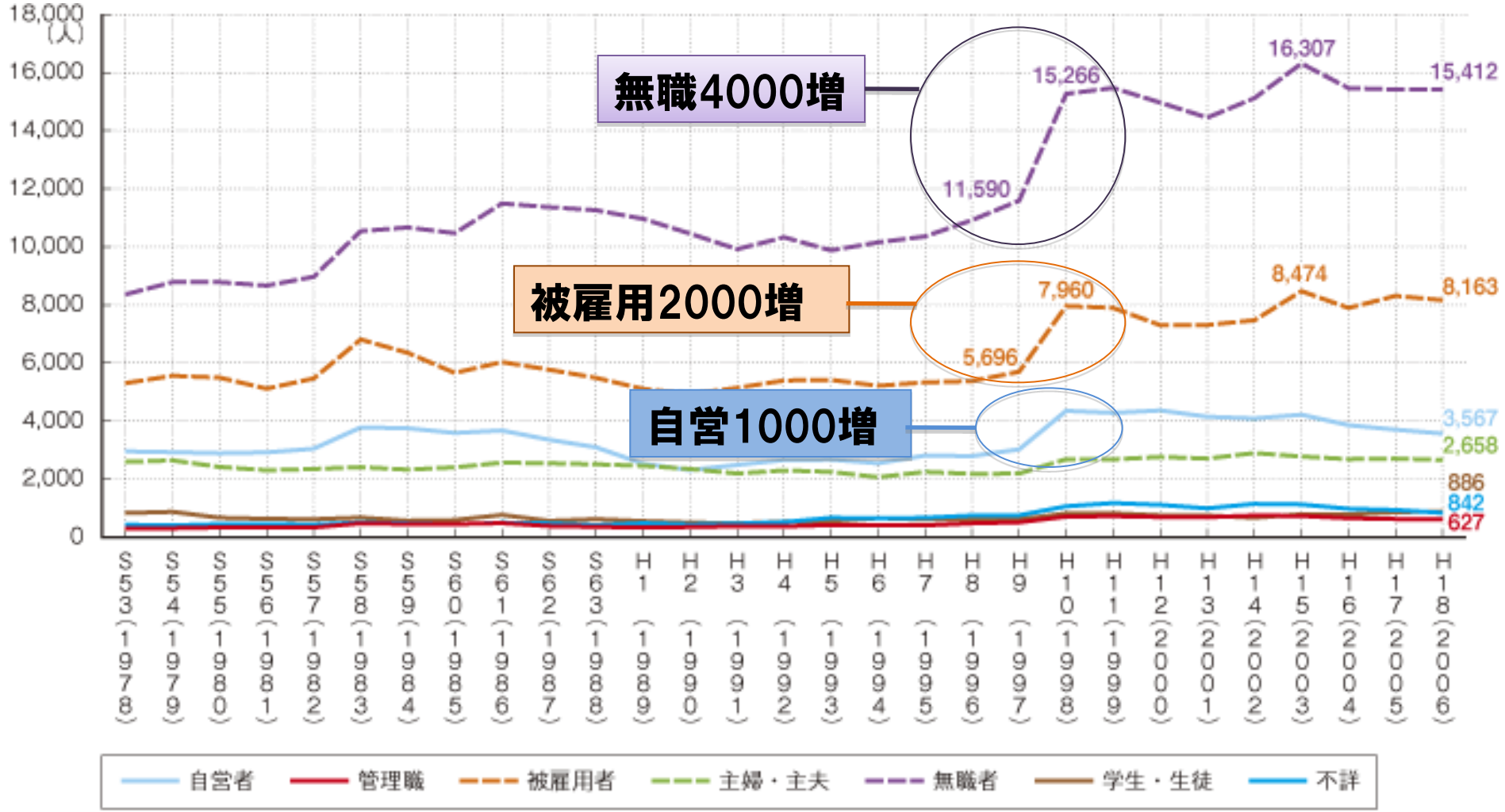
厚生労働省人口動態統計より：平成22年版自殺白書

平成17年における配偶関係別の自殺死亡率（配偶関係別人口10万人当たり）の状況（女性）



厚生労働省人口動態統計より：平成22年版自殺白書

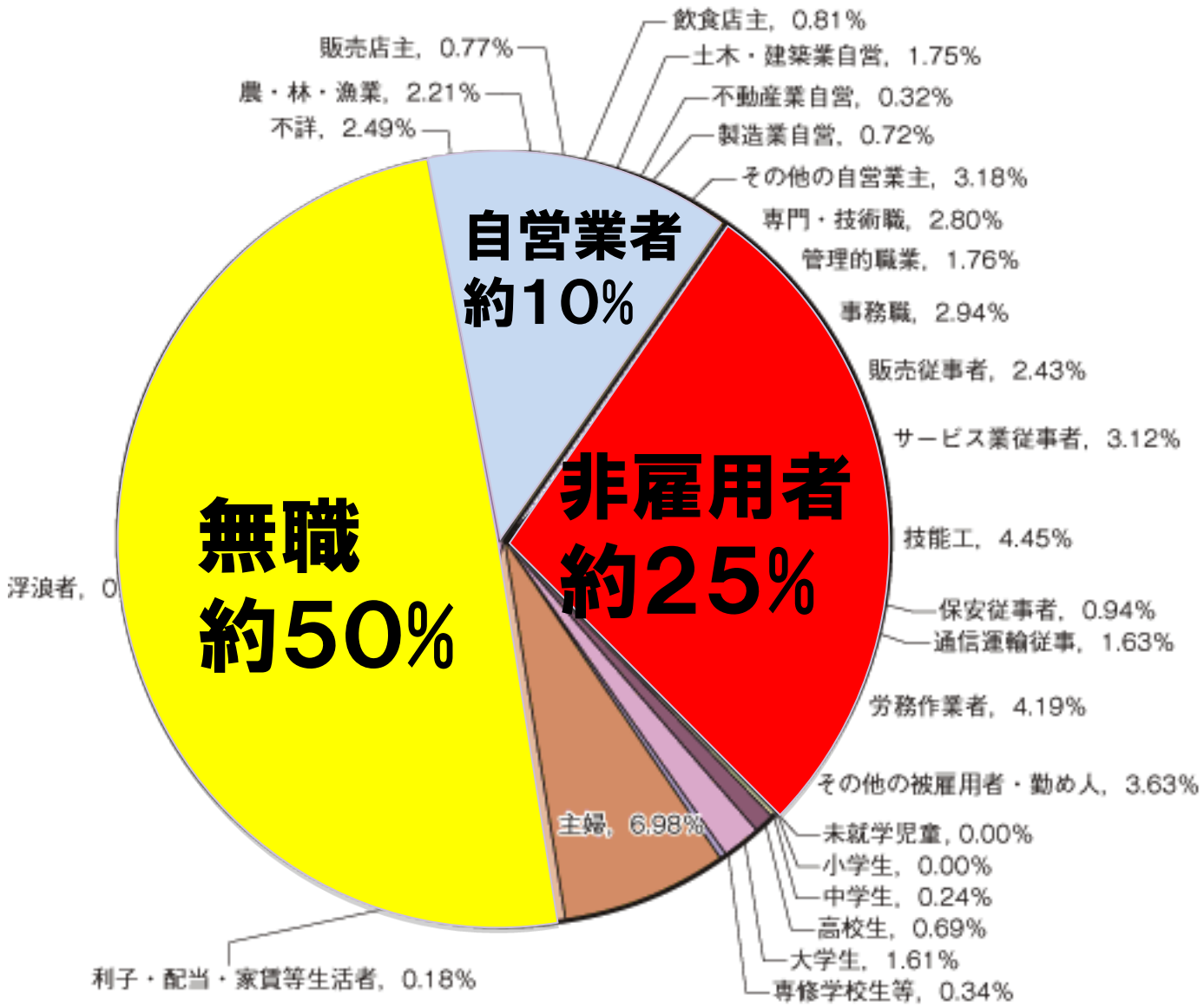
職業別の自殺者数の推移



※「主婦・主夫」については、平成11年までは主婦（女性）のみを計上している。

警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

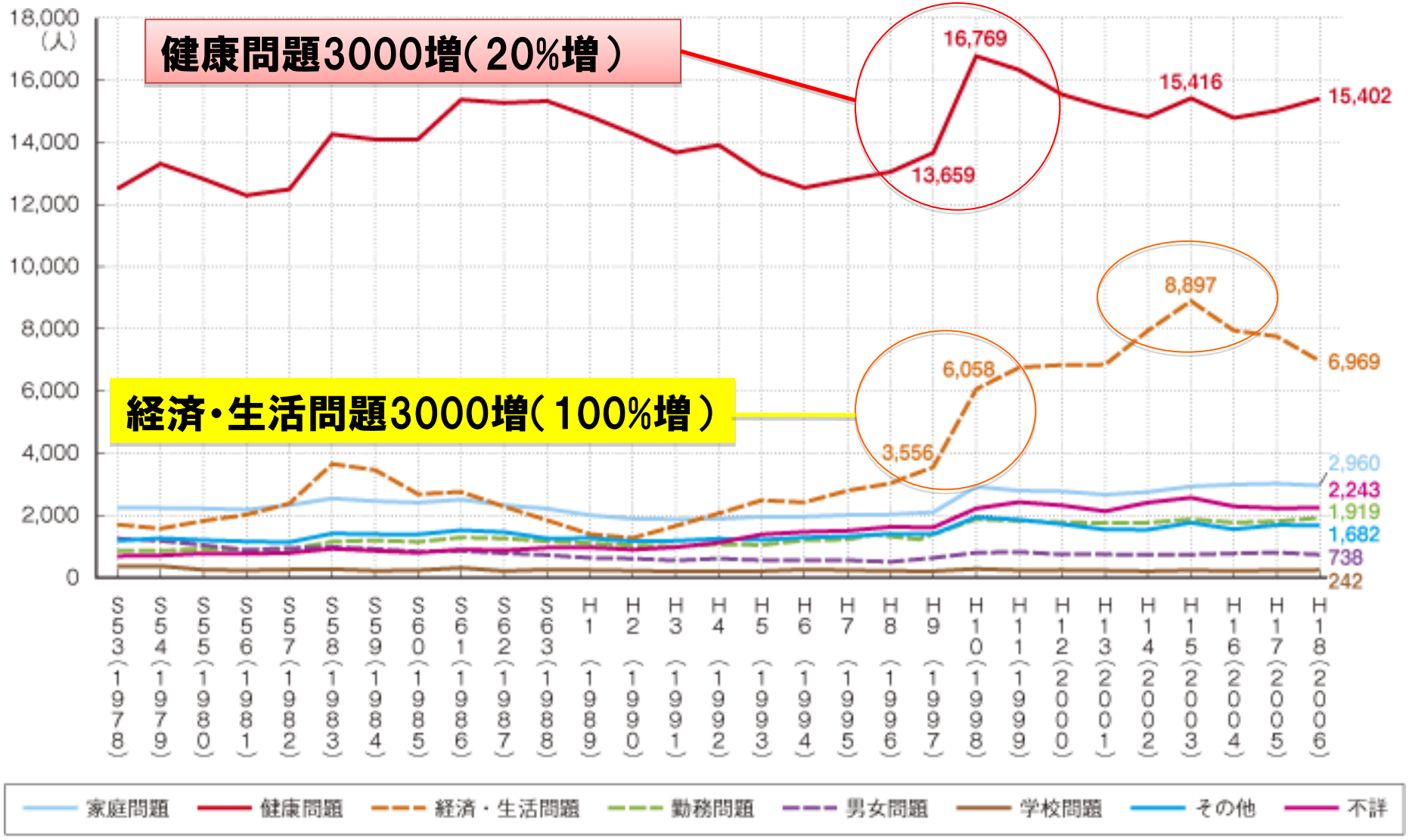
平成21年における職業別自殺者数の構成割合



無職者の占める割合が大きい

警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

原因・動機別の自殺者数の推移



警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

なぜ自殺者数が急増したのか？

- **1998 年に自殺者数急増**
  - 特に50～60代男性、最近は30～40代に
- **離別男性のリスクが高い。**
- **無職者、経済・生活問題での増加が目立つ。**
- **北東北、南九州、山陰といった従来から自殺率の高い県で一層増加**
- **1998年：経済成長率がマイナス、求人倍率大きく低下、完全失業率4%↑、雇用保険受給者数・企業倒産件数の急増**
  - 30歳代後半から60歳代前半の男性自殺率の急増に最も影響力があった要因は、失業あるいは失業率の増加に代表される雇用・経済環境の悪化である可能性が高い。（平成18年7月 内閣府経済社会総合研究所）

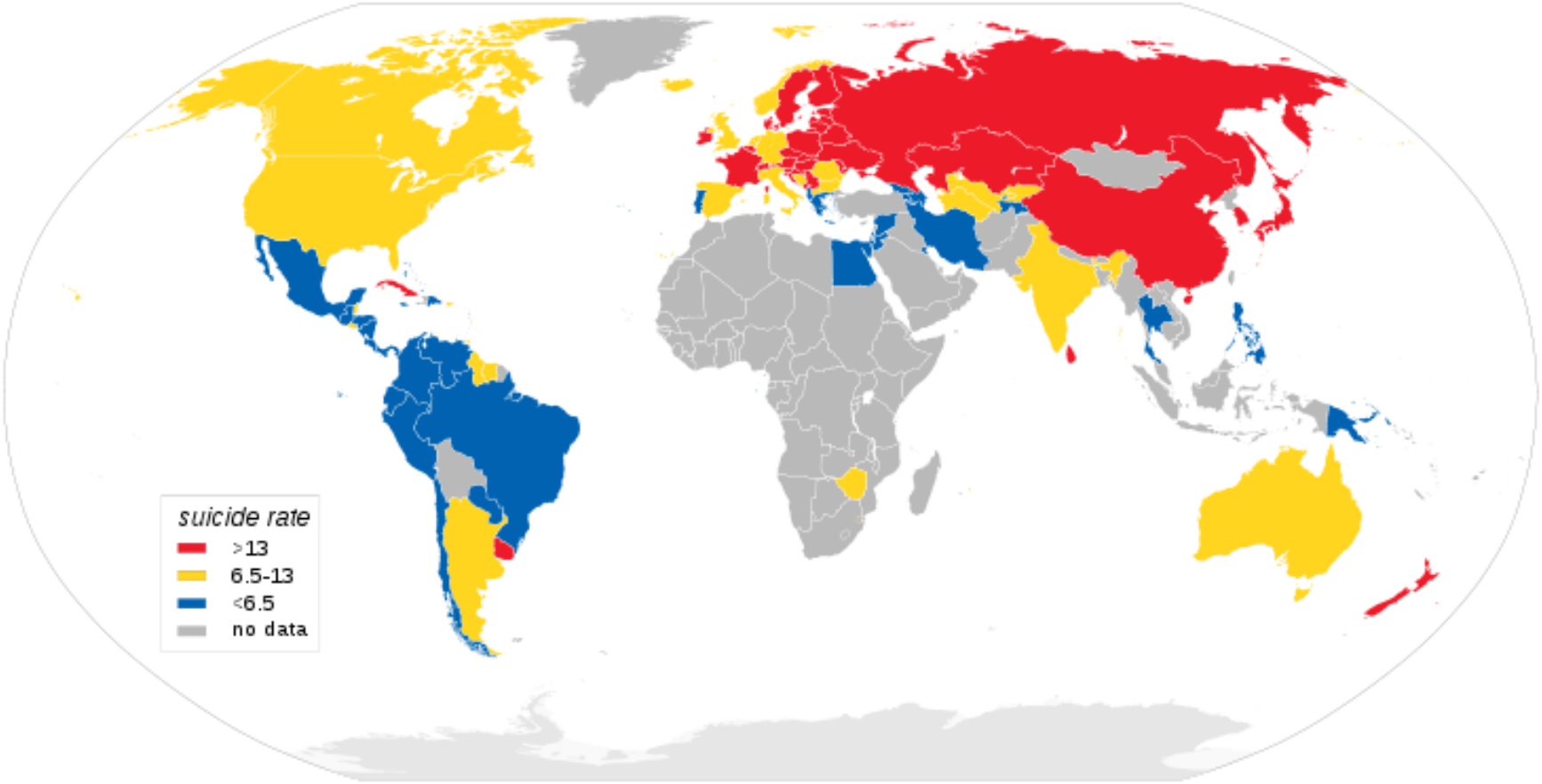
日本の自殺対策「自殺大綱（H19閣議決定）」

- **自殺対策基本法（H18年施行）**
- **<u>自殺の基本的な認識</u>**
  - 自殺は追い込まれた末の死
  - 自殺は防ぐことができる
  - 自殺を考えている人は悩みを抱えながらもサインを発している
- **自殺対策の基本的考え方**
  1. 社会的要因も踏まえ総合的に取り組む
  2. 国民一人ひとりが自殺予防の主役となるよう取り組む
  3. 自殺の事前予防、危機対応に加え未遂者や遺族等への事後対応に取り組む
  4. 自殺を考えている人を関係者が連携して包括的に支える
  5. 自殺の実態解明を進め、その成果に基づき施策を展開する
  6. 中長期的視点に立って、継続的に進める

世界における自殺（WHO報告より）

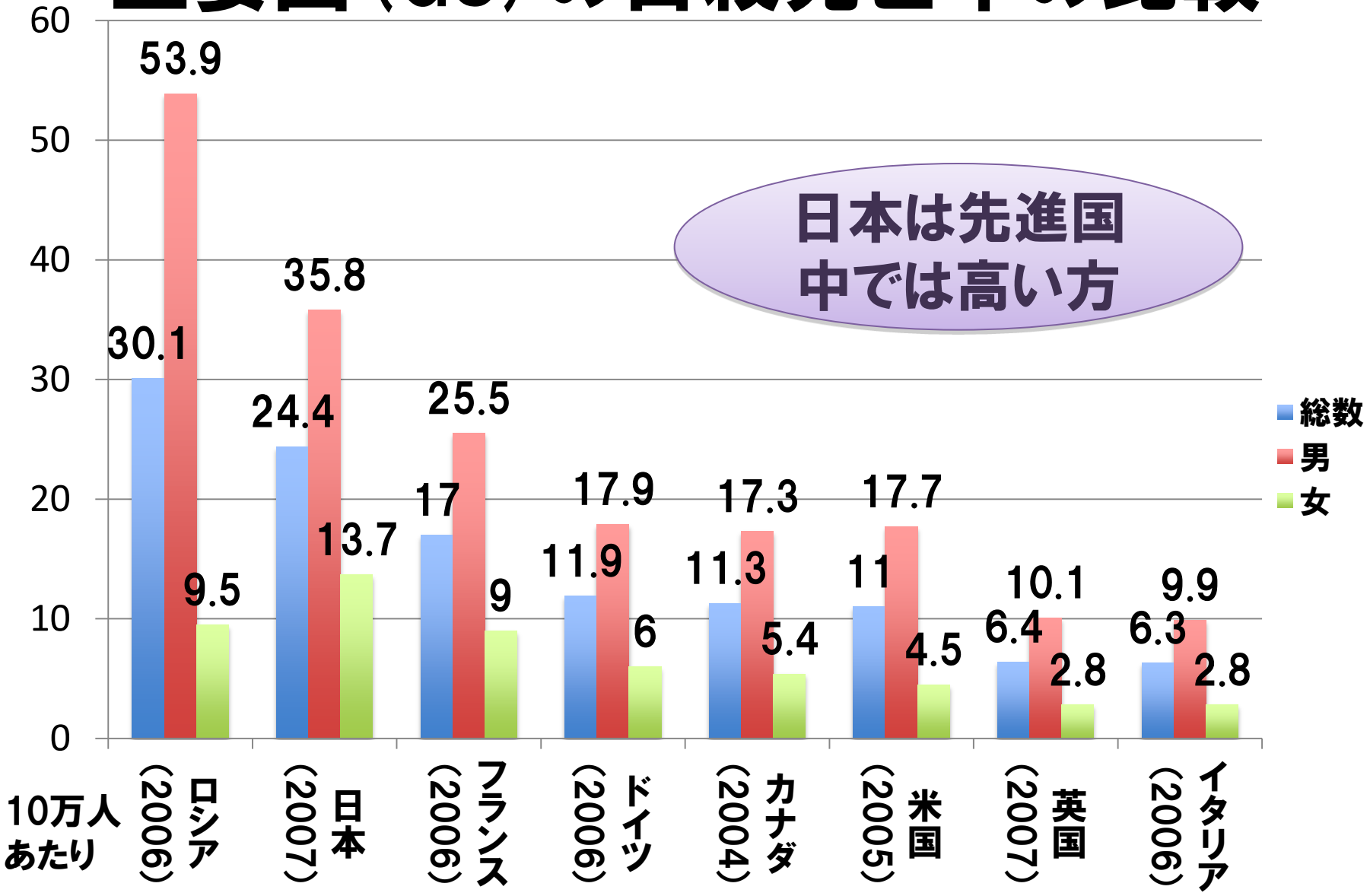
- 毎年約100万人が死亡（40秒に1名）
- 過去45年間で自殺率が60％増加
- 若い世代の主要な死因：15−44歳の3位以内
- 自殺未遂は自殺既遂の20倍と推計
- これまでは高齢男性で自殺率が高かったが、1/3の国々では若い世代の自殺率が高くなってきている
- 欧米では、うつ病やアルコール依存症などの精神疾患が自殺の主要な危険因子であるが、アジアの国々では衝動性が重要な役割とされている
- 自殺は、心理的、社会的、生物的、文化的および環境的要因が複雑に関与している

自殺率の分布（10万人あたり）



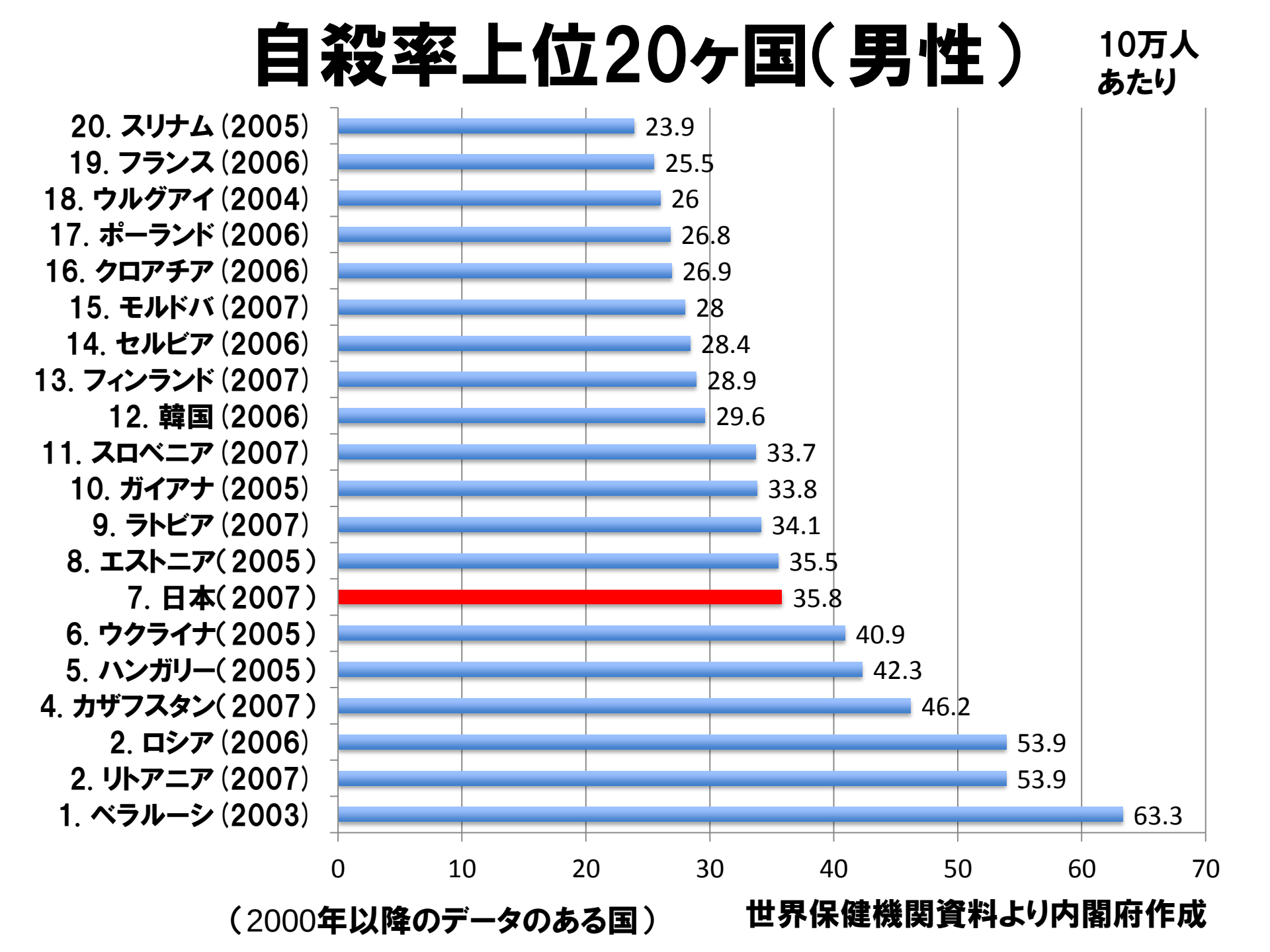
東アジア、ヨーロッパが自殺率の高い地域。南米は低い。
東南アジア、アフリカ諸国のデータは十分でない。

主要国（G8）の自殺死亡率の比較



世界保健機関資料より内閣府作成

自殺率上位20ヶ国（男性）

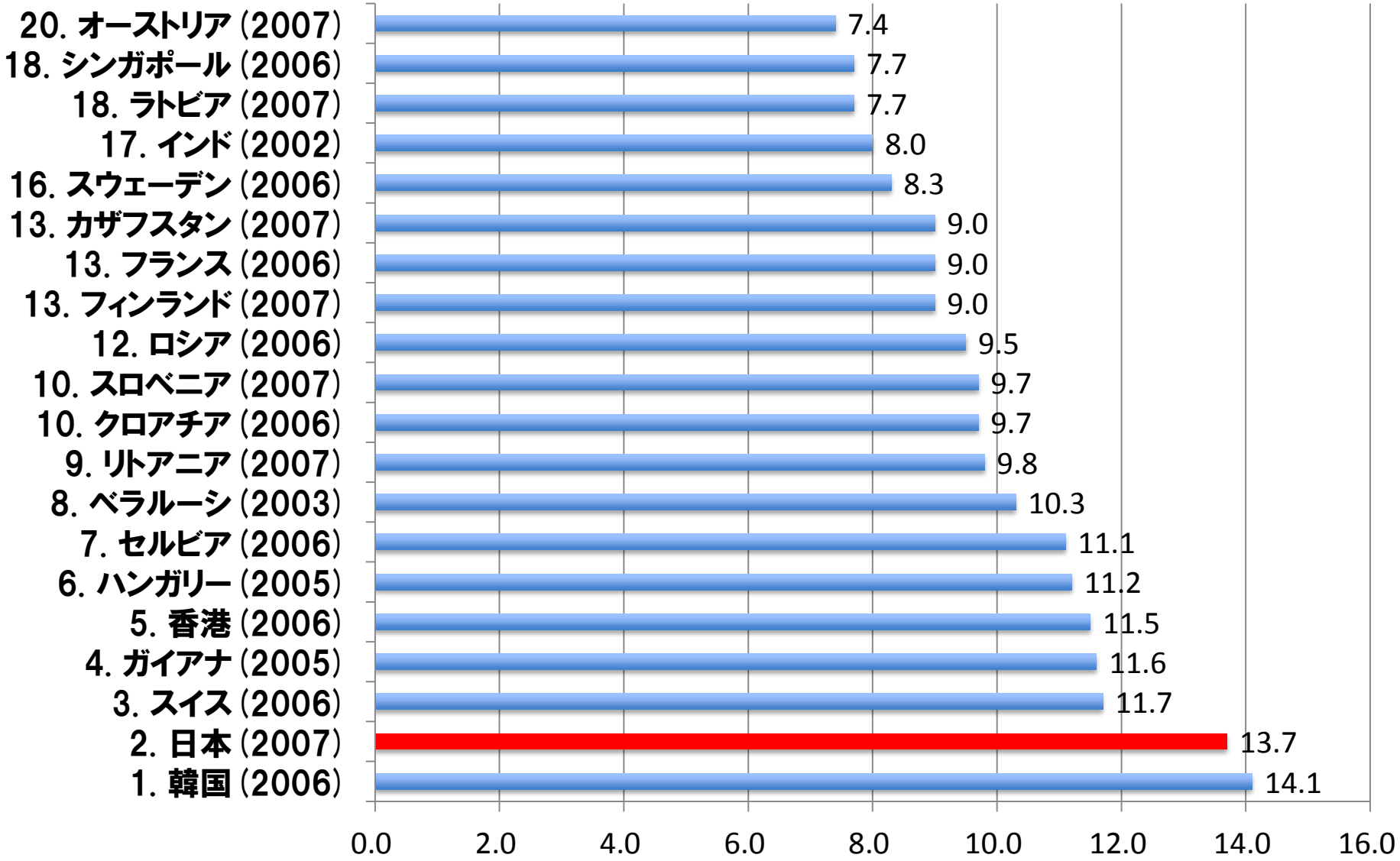


（2000年以降のデータのある国）

世界保健機関資料より内閣府作成

自殺率上位20ヶ国（女性）

10万人あたり



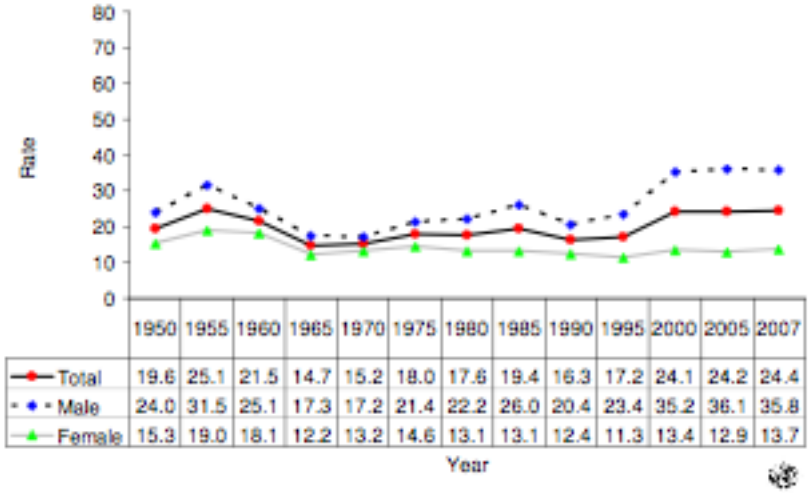
（2000年以降のデータのある国）

世界保健機関資料より内閣府作成

各国の自殺率の推移（WHO資料より）

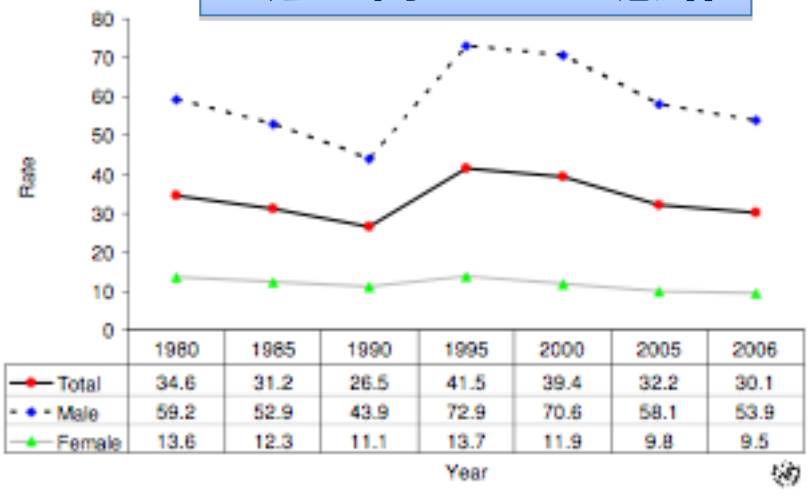
- 自殺率が高い国：ロシア
- 自殺率が低い国：イギリス
- 自殺率が日本に近い国：フィンランド
- 自殺率が急増した国：韓国

日本とロシアの比較

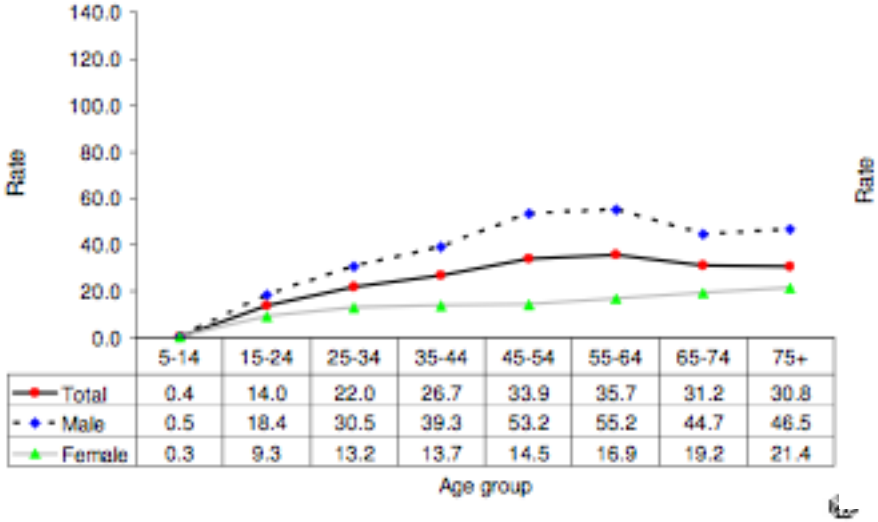


	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
Total	19.6	25.1	21.5	14.7	15.2	18.0	17.6	19.4	16.3	17.2	24.1	24.2	24.4
Male	24.0	31.5	25.1	17.3	17.2	21.4	22.2	26.0	20.4	23.4	35.2	36.1	35.8
Female	15.3	19.0	18.1	12.2	13.2	14.6	13.1	13.1	12.4	11.3	13.4	12.9	13.7

ソ連が倒れてから急増

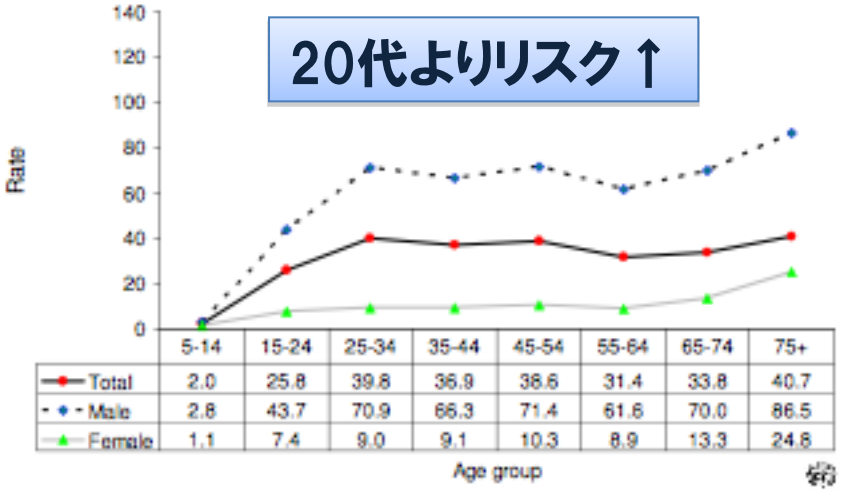


	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2006
Total	34.6	31.2	26.5	41.5	39.4	32.2	30.1
Male	59.2	52.9	43.9	72.9	70.6	58.1	53.9
Female	13.6	12.3	11.1	13.7	11.9	9.8	9.5



	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	0.4	14.0	22.0	26.7	33.9	35.7	31.2	30.8
Male	0.5	18.4	30.5	39.3	53.2	55.2	44.7	46.5
Female	0.3	9.3	13.2	13.7	14.5	16.9	19.2	21.4

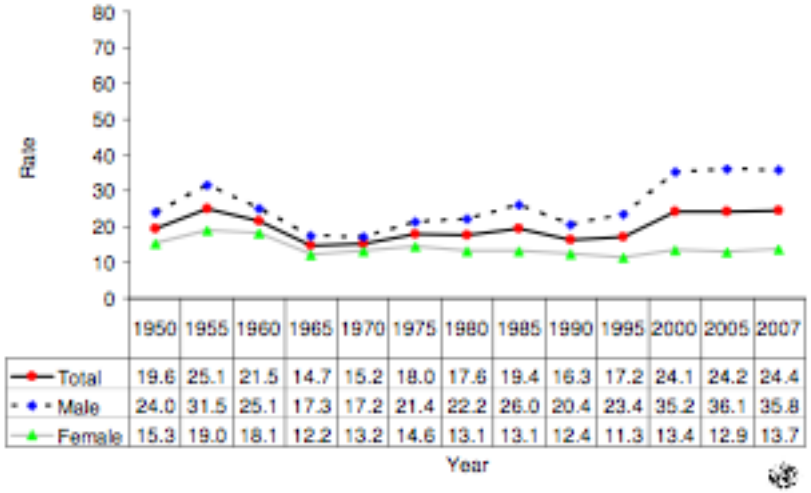
20代よりリスク↑



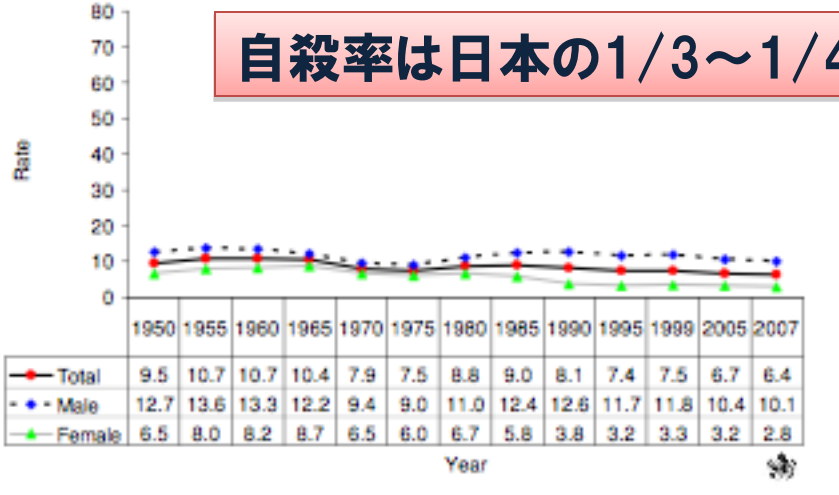
	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	2.0	25.8	39.8	36.9	38.6	31.4	33.8	40.7
Male	2.8	43.7	70.9	66.3	71.4	61.6	70.0	86.5
Female	1.1	7.4	9.0	9.1	10.3	8.9	13.3	24.8

WHO, suicide prevention, country report

日本と英国の比較

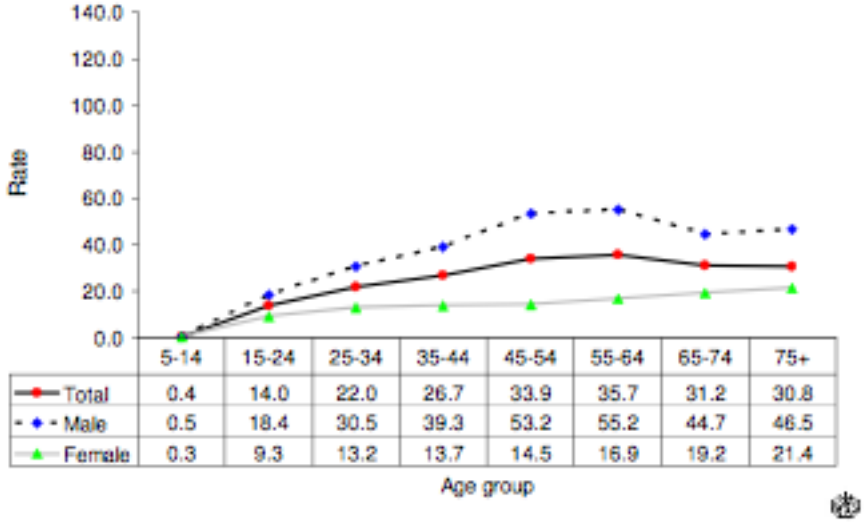


	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
Total	19.6	25.1	21.5	14.7	15.2	18.0	17.6	19.4	16.3	17.2	24.1	24.2	24.4
Male	24.0	31.5	25.1	17.3	17.2	21.4	22.2	26.0	20.4	23.4	35.2	36.1	35.8
Female	15.3	19.0	18.1	12.2	13.2	14.6	13.1	13.1	12.4	11.3	13.4	12.9	13.7

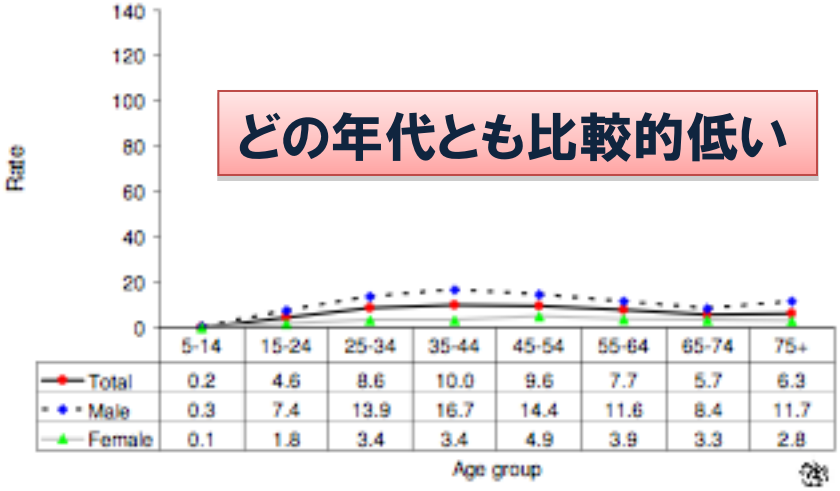


自殺率は日本の1/3～1/4

	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	1999	2005	2007
Total	9.5	10.7	10.7	10.4	7.9	7.5	8.8	9.0	8.1	7.4	7.5	6.7	6.4
Male	12.7	13.6	13.3	12.2	9.4	9.0	11.0	12.4	12.6	11.7	11.8	10.4	10.1
Female	6.5	8.0	8.2	8.7	6.5	6.0	6.7	5.8	3.8	3.2	3.3	3.2	2.8



	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	0.4	14.0	22.0	26.7	33.9	35.7	31.2	30.8
Male	0.5	18.4	30.5	39.3	53.2	55.2	44.7	46.5
Female	0.3	9.3	13.2	13.7	14.5	16.9	19.2	21.4

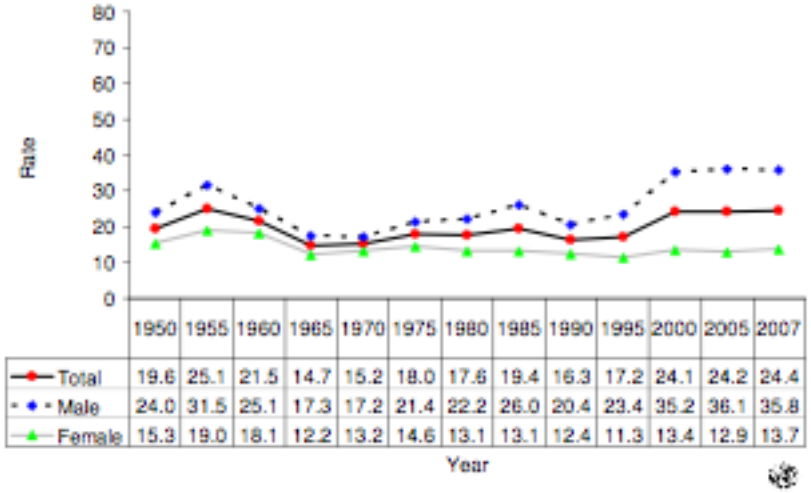


どの年代とも比較的低い

	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	0.2	4.6	8.6	10.0	9.6	7.7	5.7	6.3
Male	0.3	7.4	13.9	16.7	14.4	11.6	8.4	11.7
Female	0.1	1.8	3.4	3.4	4.9	3.9	3.3	2.8

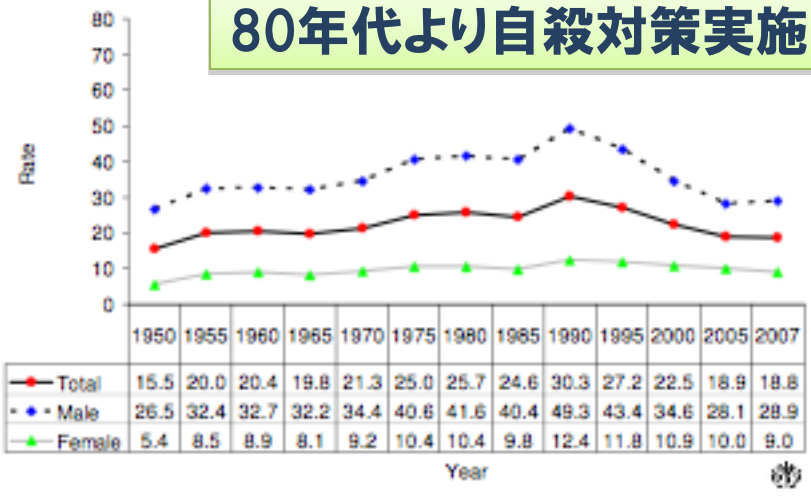
WHO, suicide prevention, country report

日本とフィンランドの比較

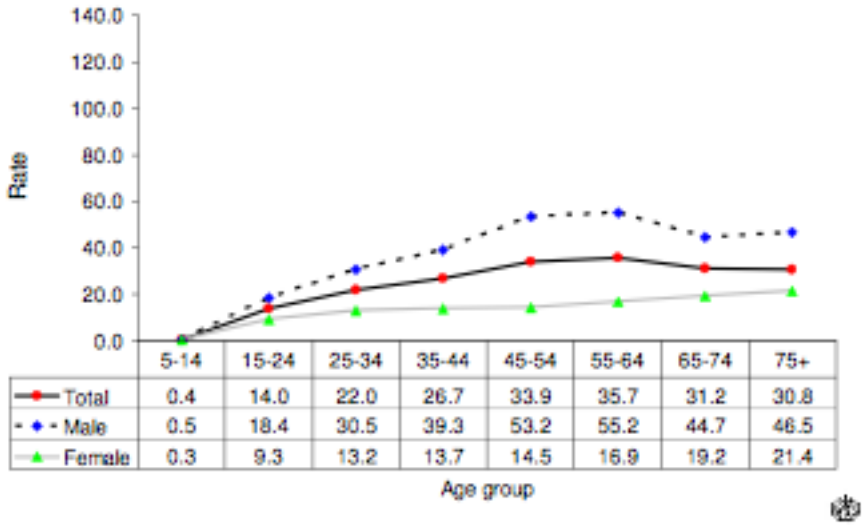


	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
Total	19.6	25.1	21.5	14.7	15.2	18.0	17.6	19.4	16.3	17.2	24.1	24.2	24.4
Male	24.0	31.5	25.1	17.3	17.2	21.4	22.2	26.0	20.4	23.4	35.2	36.1	35.8
Female	15.3	19.0	18.1	12.2	13.2	14.6	13.1	13.1	12.4	11.3	13.4	12.9	13.7

80年代より自殺対策実施

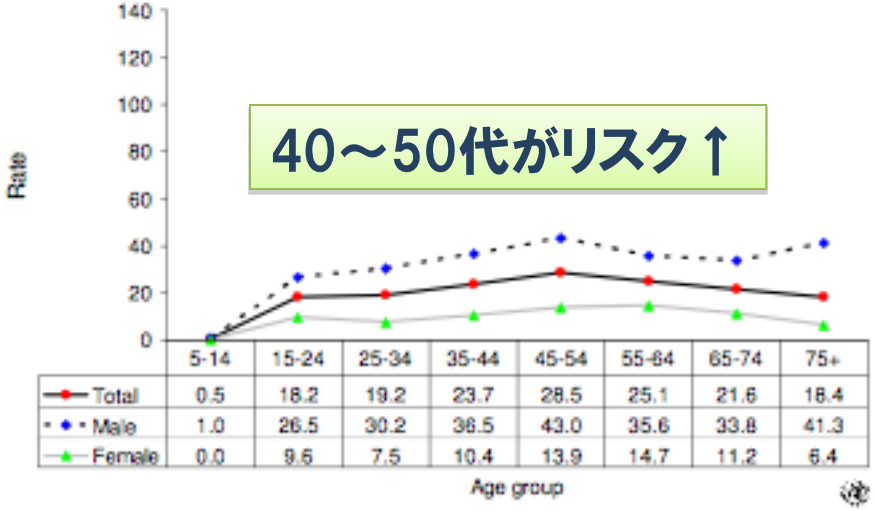


	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
Total	15.5	20.0	20.4	19.8	21.3	25.0	25.7	24.6	30.3	27.2	22.5	18.9	18.8
Male	26.5	32.4	32.7	32.2	34.4	40.6	41.6	40.4	49.3	43.4	34.6	28.1	28.9
Female	5.4	8.5	8.9	8.1	9.2	10.4	10.4	9.8	12.4	11.8	10.9	10.0	9.0



	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	0.4	14.0	22.0	26.7	33.9	35.7	31.2	30.8
Male	0.5	18.4	30.5	39.3	53.2	55.2	44.7	46.5
Female	0.3	9.3	13.2	13.7	14.5	16.9	19.2	21.4

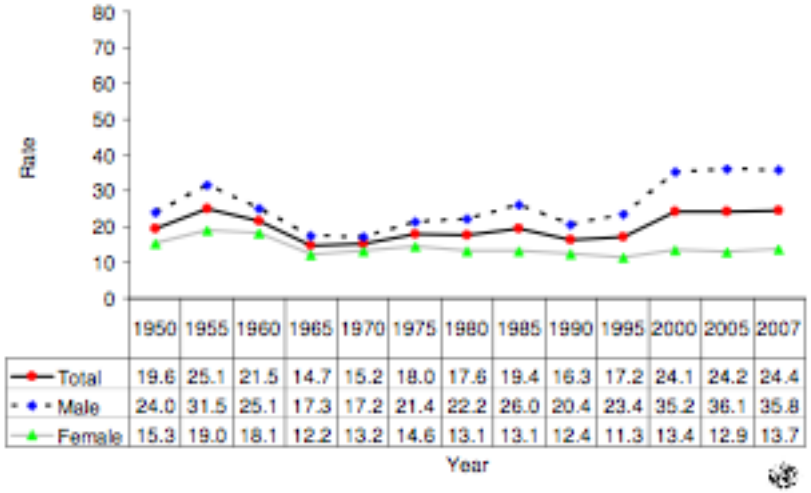
40～50代がリスク↑



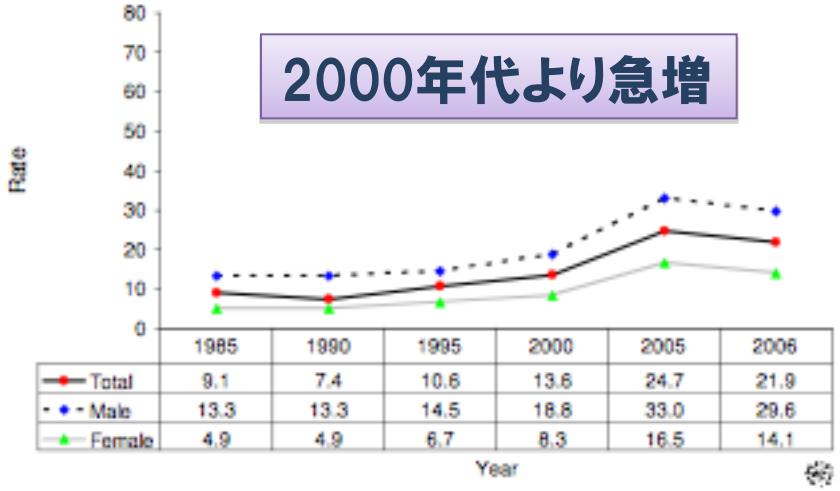
	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	0.5	18.2	19.2	23.7	28.5	25.1	21.6	18.4
Male	1.0	26.5	30.2	36.5	43.0	35.6	33.8	41.3
Female	0.0	9.6	7.5	10.4	13.9	14.7	11.2	6.4

WHO, suicide prevention, country report

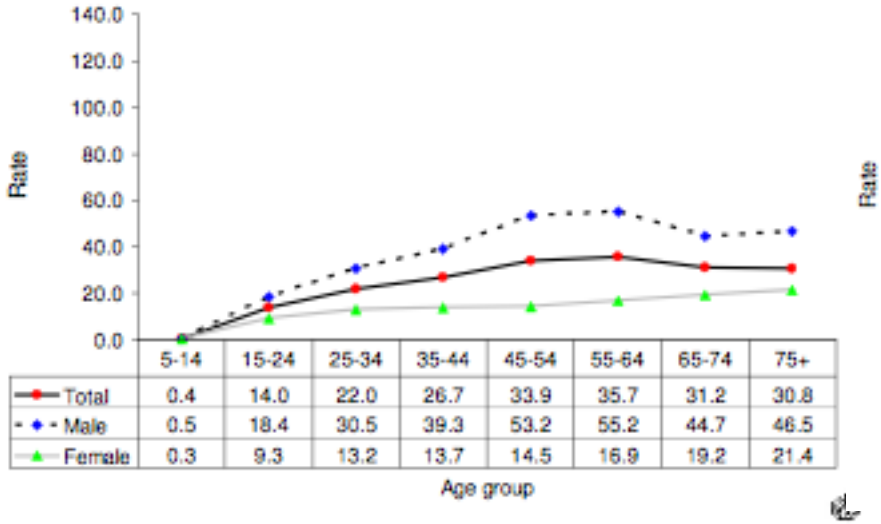
日本と韓国の比較



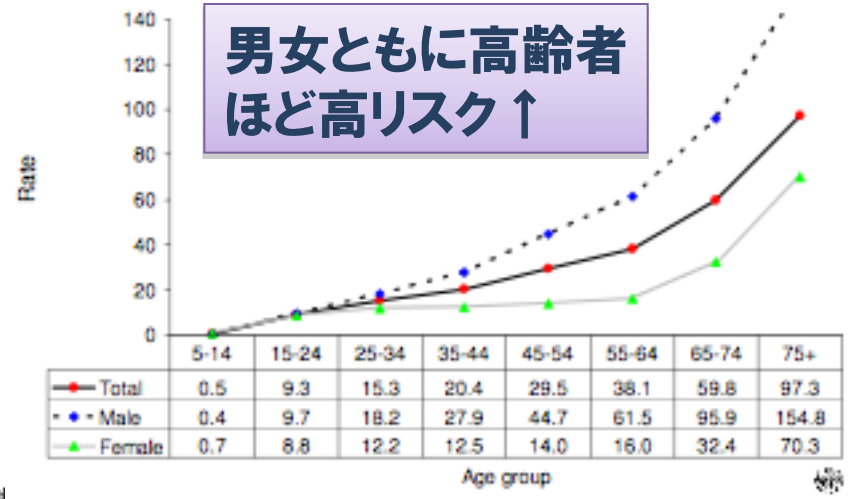
	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2007
Total	19.6	25.1	21.5	14.7	15.2	18.0	17.6	19.4	16.3	17.2	24.1	24.2	24.4
Male	24.0	31.5	25.1	17.3	17.2	21.4	22.2	26.0	20.4	23.4	35.2	36.1	35.8
Female	15.3	19.0	18.1	12.2	13.2	14.6	13.1	13.1	12.4	11.3	13.4	12.9	13.7



	1985	1990	1995	2000	2005	2006
Total	9.1	7.4	10.6	13.6	24.7	21.9
Male	13.3	13.3	14.5	18.8	33.0	29.6
Female	4.9	4.9	6.7	8.3	16.5	14.1



	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	0.4	14.0	22.0	26.7	33.9	35.7	31.2	30.8
Male	0.5	18.4	30.5	39.3	53.2	55.2	44.7	46.5
Female	0.3	9.3	13.2	13.7	14.5	16.9	19.2	21.4



	5-14	15-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75+
Total	0.5	9.3	15.3	20.4	29.5	38.1	59.8	97.3
Male	0.4	9.7	18.2	27.9	44.7	61.5	95.9	154.8
Female	0.7	8.8	12.2	12.5	14.0	16.0	32.4	70.3

WHO, suicide prevention, country report

日本人の自殺決定要因の特徴
OECD諸国との比較(Chen, Choi, Sawada. 2008)

- 「自殺実態白書2008―第3章自殺の社会的要因」内で日本語で詳細な解説
- 結論
  - 日本は、他のOECD諸国と比べて、自殺率と経済指標の関連が強く、自殺が経済的要因でもたらされている可能性が強い。

考察

- **日本における自殺率急増の原因は？**
  - *経済の悪化*
  - *日本社会の脆弱性*
- **自殺率とは何を示しているか？**
  - *社会で追いつめられている人々の割合の指標*
- **自殺者数を減らすためには？**
  - *持続可能な社会（幸せな社会）*
  - *当事者だけでなく、市民全員の課題*
  - *英国はなぜ自殺率が低いのか？*